

産業観光まちづくり大賞は、観光による地域振興の新しい手法として注目されている「産業観光（産業遺産や、現在稼働している工場・工房などを活用した観光）」による観光まちづくりを実践し、他の地域の模範となる優れた事例を表彰する制度で、平成19年度より創設されました。産業観光に取り組む地方自治体、観光協会、商工会議所、NPO、商店街、企業等を対象に、幅広く募集を行い、受入側と訪問側に双方のメリットがあるビジネスモデルになっているか、またその継続性があるかなどを主な評価の視点として、審査を行っています。

金賞

海女小屋はちまんかまど／有限会社 兵吉屋（三重県鳥羽市）



海女着体験（ロシアからのお客様）



車椅子リフト付き福祉車両「海女バス」

平成16年に日本で初めて実際に使用している海女小屋を開放し、現役海女が米国のお客様をもてなしたことがきっかけとなり、「海女小屋はちまんかまど」での体験サービスが始まった。海女小屋では、食事の他に、現役海女による海女漁と日々の生活についての語り、地元の踊り披露、海女着体験などが行われている。伊勢志摩にエコツーリズムの観点等から、優れた海女小屋が多くある中で、とりわけ先駆的な役割を果たし、「海女」を観光商品として誘客する取組が生まれ、地域の観光産業を牽引するとともに、後継者不足に悩む「海女文化」を守り育てる機運も高まっている。積極的な受入環境整備もあり、平成29年には2万人（外国人約4割）を超える人々が訪れている。

評価のポイント（審査委員より）

3000年の歴史がある「海女文化」を観光資源とした取組であり、インバウンドへの対応力や大きな成果を上げていることなどが高く評価された。先駆的取組として既に有名ではあるが、独自性も高く、強みを活かした素晴らしい内容であり、地域の総合的な観光発展を先導するような今後の中・長期的な取組に期待する。また、観光客受け入れが、海女さんのモチベーション向上など、担い手の確保にも繋がっている点も評価できる。昇龍道プロジェクトをはじめとした地域連携のみならず、「海女文化」を通じたより幅広い連携にもさらに期待するところである。

経済産業大臣賞

感動寿司体験／株式会社 梅守本店（奈良県奈良市）

寿司製造工場と販売卸を行っている地域の食品製造メーカーである株式会社梅守本店は、平成25年から寿司学校事業を開始。「人が人を大切にする社会を作る。国籍、人種、性別、病気、障害に囚われることなくすべての人が幸せになる為に」、「食」から得られる「感動」をテーマに、エンターテインメント性が高い寿司体験を毎日開催している。参加者の95%がインバウンド客で、これまでに30万人以上が参加しており、奈良の地域産業への波及効果も大きい。また、大和観光協議会を立ち上げ、奈良県山添村において、古民家再生を行い、インバウンド受入の新たな拠点としての展開を進めている。

評価のポイント（審査委員より）

食文化と観光を結び地域産業観光活性化に繋げるのみならず、社会貢献まで視野に入れて取り組んでいる点が高く評価された。世界的にも認知度が高い日本の代表的食文化である「寿司」を、食べるだけでなく、エンターテインメント性を持たせて体験型コンテンツとして提供することで、高い経済効果を生み出している。今後地域連携の取組を一步押し進めて、地域の看板としてのブランド力向上に期待する。



寿司オリンピック



感動寿司体験の様子

観光庁長官賞

益子焼を使った取組／益子町観光協会（栃木県芳賀郡益子町）



益子陶器市

日下田藍染工房

伝統工芸品である「益子焼」を軸に、地域観光を展開。年2回陶器市を開催しており、平成29年の秋には100回目を迎えた。陶器市には毎回数十万人の人が訪れ、地域に大きな経済効果をもたらしている。通年では、美術館などでの益子焼作品の紹介や、町内15箇所での陶芸体験、登り窯の見学などもできる。また、益子国際工芸交流館では世界各国の代表作家や若手作家の交流事業を開催し、作品創作や人材育成にも努めている。平成28年に道の駅ましががオープン、観光案内の連携により観光客の回遊が図られている。町内のカフェでは益子焼が食器として使われているところも多く、案内マップなどの作成により回遊の幅を広げている。

評価のポイント（審査委員より）

益子焼をはじめとする高い資源力を総合的に編集して事業化している点が高く評価された。100回を超える事業実施実績を誇る陶器市や、インターネット等を通じた海外発信、農業・農家との連携、笠間も入れた広域連携など様々な取組を行っている。また、道の駅と連携し地域内の周遊を図るなど、伝統産業である益子焼を活かして観光に取り組んでいる点が素晴らしい。今後は、日本全国そして海外での更なる知名度UPに向けた取組が期待される。

銀賞

ハタオリマチの輝き／富士吉田市（山梨県富士吉田市）

富士吉田市ならではの「織物の産地と観光資源」を紹介するプロジェクト及びPRサイト「ハタオリマチのハタ印」を平成28年に発足。ハタオリ体験や染物体験、ハタオリに関する音楽イベントなどを盛り込んだ「ハタオリマチフェスティバル」を同年より開催、翌29年からは毎月第3土曜日に織物工場を開放し、工場見学や商品販売を実施する「オープンファクトリー」を開催しており、来訪者数も増加している。他にも、地元宿泊施設との連携や、ワークショップの開催、デザイナーなどを対象にしたBtoB向けのバスツアーなど、千年以上続く伝統的な織物産業と観光を結びつけた取組を行っている。

評価のポイント（審査委員より）

織物都市の復活への情熱がそこかしこにあふれており、すべての取組において完成度が高い。開始2年で6千人を集めたハタオリマチフェスティバル、都内ホテルとのコラボツアー企画、地元ホテルでのファブリックアイテムとしての活用、世界的な織物産地フランスとのタイアップなど誠に意欲的な取組であり、富士山や地元の食等とも結びつけた総合的なプロジェクトの編集にも力を感じる。丁寧な活動の積み重ねがファンの拡大に繋がっているため、今後はインバウンドも視野に入れた持続的かつ斬新な展開が期待される。

産地の歴史を学ぶまち歩きツアー



織物業者とデザイナーによるトークショー

特別賞

那覇まちま〜い／一般社団法人 那覇市観光協会（沖縄県那覇市）



壺屋の通り



泊いゆ（魚）まち 本マグロ見学案内

平成22年に、市民ガイドと一緒に市内を散策する「那覇まちま〜い」を設立。自然や史跡といった一般的な観光資源だけでなく、沖縄県の特徴的な歴史や地政学的背景からの独特な産業・物産も観光資源の一つとして扱っている。22あるコースの中には、伝統的工芸品である「壺屋焼」を紹介するコースや、特産物である「マグロ」をはじめとする漁場市場のセリを見学するコースも設定している（平成30年6月現在）。ガイドには最長約6ヶ月の教育と試験合格を求めており、ガイド育成にも力を入れている。「那覇まちま〜い」の取組は沖縄全土に波及し、他自治体のまちあるきのモデルともなっている。海洋リゾート観光に加え、新たな観光の多様性を求めるものであり、沖縄観光の今後の質的向上に期待する。

評価のポイント（審査委員より）

独自の歴史を持つ沖縄で、「まちあるきガイド」の存在はさらに沖縄観光の価値を高める事に繋がるものであり、単なる地域住民参加型ではなく教育・試験制度を採用し、ガイドの質向上に取り組んでいること、常時対応できる組織力などが評価された。魅力ある素材をどのように組立て、どのように観光としての事業成果に結び付けるかが、より長い滞在を決定づける鍵となるため、コースの拡充と更なる内容の充実を期待する。